

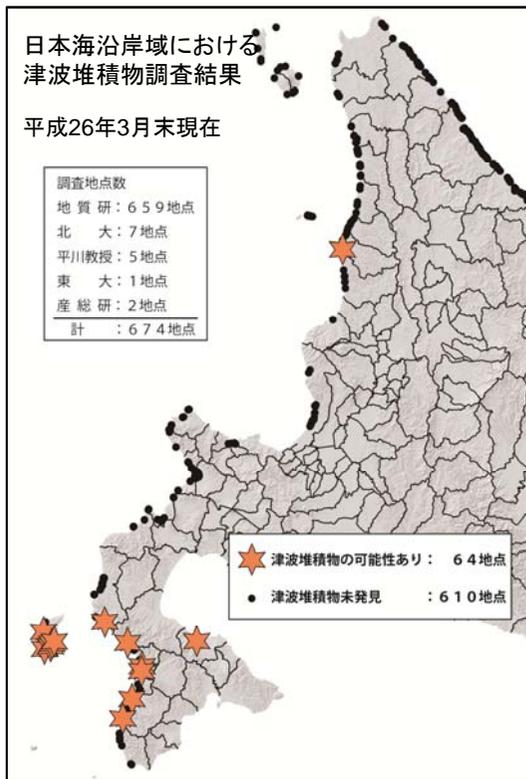
北海道の津波履歴を明らかにして、防災・減災対策に役立てます

背景

- 東日本大震災以後、行政機関などでは過去最大の津波を把握した上で、防災・減災対策をすすめている。
- 北海道の日本海およびオホーツク海沿岸における津波履歴は不明である。

成果

1 津波堆積物の分布を把握



2 津波の頻度を把握



(左図) 津波堆積物は、おもに檜山沿岸で発見。
(上写真) 奥尻島では、過去3000年間の地層中に5層の津波堆積物(白矢印)を見出した。

3 津波の規模を把握



西暦1741年寛保の津波、および13世紀頃の2つの津波は、1993年南西沖を超える規模であった可能性がある。

期待される効果

- 得られた津波履歴に関する情報を、北海道防災会議や内閣府など防災・減災対策を所管する行政機関などへ提供。
- 行政機関などで、住民の意識改革のための防災教育や地域防災計画など、防災・減災対策に活用。